

- 問1 近畿地方を北西（日本海側）から南東（太平洋側）へ横断するように、土地の起伏を垂直方向の断面で示した資料があります。その資料において、中央付近には標高1,000メートルから2,000メートルに達する鋭い山並みが描かれ、両端の沿岸部は標高がゼロに近い平坦な地形となっています。この中央部に位置する山地の名称と、その地形が地域に与える影響について述べた説明として、最も適切なものを選んでください。
（2026年 山口県公立入試 類似）
1. 飛騨山脈が位置しており、標高が高く冬の積雪が非常に多いため、一年を通じて雪を利用した観光業が発展している。

2. 中国山地が位置しており、なだらかな山容を利用して大規模な牧場が作られ、乳牛の飼育が盛んに行われている。

3. 紀伊山地が位置しており、南東から吹く湿った季節風を遮ることで、その南斜面に非常に多い降水量をもたらしている。

4. 木曾山脈が位置しており、急峻な地形を利用した大規模な水力発電所が数多く建設され、京阪神への電力供給源となっている。
- 問2 日本を7つの地方に区分する考え方において、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府5県が含まれる地方区分を何と呼びますか。
（2021年 山口県公立入試 類似）
1. 中国・四国地方

2. 関東地方

3. 近畿地方

4. 中部地方
- 問3 製造品出荷額の構成において、石油・石炭製品や化学工業、鉄鋼業といった重化学工業が上位を占めている県があります。臨海部を中心にこれらの大規模な工場が発達している、近畿地方に属する県はどこですか。
（2023年 富山県公立入試 類似）
1. 和歌山県

2. 静岡県

3. 長野県

4. 滋賀県
- 問4 近畿地方では、大阪や京都、神戸といった大消費地が近いことを活かして、野菜や畜産などが盛んに行われています。このように、大都市の周辺で行われる、鮮度の高い農産物を供給するための農業形態を何と呼びますか。
（2024年 大分県公立入試 類似）
1. 抑制栽培

2. 促成栽培

3. 企業的農業

4. 都市近郊農業
- 問5 人口密度、昼夜間人口比率、産業別生産額などを比較した資料において、大阪府に該当する地域の特徴を述べたものとして正しいものはどれですか。
（2026年 静岡県公立入試 類似）
1. 人口密度が低く、農業・漁業の生産量が他地域に比べて極めて高い傾向にある。

2. 昼夜間人口比率がちょうど100%であり、地域内での労働力と居住者のバランスが完全に一致している。

3. 人口密度は高いものの、昼夜間人口比率は100%を下回っており、多くの住民が府外へ通勤している。

4. 人口密度が高く、昼夜間人口比率が100%を超えており、昼間の人口が夜間の人口を上回っている。
- 問6 日本の主要都市の気候について、降水量の季節変化に注目して説明した文のうち、大阪市の特徴を正しく述べているものを選びなさい。
（2020年 鹿児島県公立入試 類似）
1. 一年を通じて降水量が平均的に少なく、月ごとの降水量の変化がほとんど見られない典型的な瀬戸内海の気候である。

2. 夏から秋にかけて降水量が最も多くなり、冬の降水量は少なくなる、太平洋側の気候に近い特徴を持つ。

3. 日本海からの湿った季節風の影響を強く受けるため、夏よりも冬の降水量の方が多くなる。

4. 内陸部に位置するため、海沿いの都市と比較して冬の降水量が夏を大きく上回る。
- 問7 近畿地方に位置する兵庫県の産業の特徴について説明した文として、最も適切なものを次から選びなさい。
（2023年 高知県公立入試 類似）
1. 九州地方の南部に位置し、広大なシラス台地で肉用牛の飼育や茶の栽培が全国有数の規模で行われているが、製造品出荷額は全国上位ではない。

2. 阪神工業地帯や播磨臨海工業地域を含み製造品出荷額等が高く、但馬牛などの肉用牛の飼育や茶の栽培といった農業も盛んである。

3. 日本最大の工業地帯の中心であり、自動車の生産額が全国で最も多く、県内の台地では茶の生産も全国上位の規模で行われている。

4. 太平洋に面した温暖な気候を利用して茶の生産が全国トップクラスであり、臨海部ではオートバイや楽器の製造が盛んである。
- 問8 近畿地方の主要な3府県（大阪府、兵庫県、京都府）を比較したとき、北は日本海から南は瀬戸内海まで県域が広がり、これら3府県の中で最も面積が大きい自治体を選びなさい。
（2015年 富山県公立入試 類似）
1. 京都府

2. 滋賀県

3. 兵庫県

4. 大阪府
- 問9 奈良市の気候を統計資料で確認した際、他の地域と比較して顕著に見られる特徴の組み合わせとして正しいものはどれですか。
（2026年 静岡県公立入試 類似）
1. 年間降水量が2,500mmを超え、夏は南東からの季節風によって非常に蒸し暑い日が続く。

2. 冬の降水量が夏の降水量を上回り、北西からの季節風によって長期間の降雪が見られる。

3. 年間降水量が比較的少なく、冬の気温が氷点下近くまで下がるなど、夏と冬の気温差が激しい。

4. 一年を通じて気温の変化が小さく、降水量は梅雨や台風の時期にのみ集中している。
- 問10 「環境こだわり農業」に関する統計資料において、2001年にはほぼ0haであった栽培面積が、2009年には約12,000ha近くまで急増している要因として、最もふさわしい説明はどれですか。
（2015年 長野県公立入試 類似）
1. 海外からの安い農産物に対抗するため、化学肥料を大量投入して収穫量を最大化する方針に転換したため。

2. 工業用水の需要が高まったことで、農業排水をすべて工業用に再利用するシステムが完成したため。

3. 農業従事者の高齢化に伴い、排水の管理や農業の散布などの手間を省く農法が普及したため。

4. 琵琶湖の水質保全を目的として、農薬・化学肥料の削減や農業排水の管理を徹底する農家が増えたため。
- 問11 近畿地方の南部に位置する紀伊山地について、この地域の自然環境と産業の関係を説明した文として最も適切なものはどれですか。
（2021年 福島県公立入試 類似）
1. なだらかな傾斜地が多いため、広大な平野を利用した機械化農業が中心である。

2. 年間を通じて降水量が少なく乾燥しているため、大規模な溜池が作られている。

3. 火山活動が活発であり、地熱発電を利用した工業団地が形成されている。

4. 黒潮の影響で降水量が多く、古くから杉や檜などの林業が盛んである。
- 問12 千里ニュータウンなどの大規模住宅団地では、1990年頃から65歳以上の人口割合（高齢化率）が全国平均を上回る急激な角度で上昇しています。同時に15歳から64歳の生産年齢人口が急減していますが、このような急激な高齢化が起こる主な要因として、適切な説明はどれですか。
（2021年 鹿児島県公立入試 類似）
1. 医療技術の進歩により、ニュータウン居住者の平均寿命が全国平均に比べて極端に長くなったこと。

2. 出生率が急激に上昇した結果、子育てを終えた親世代が周辺地域から一斉に呼び寄せられたこと。

3. 開発当初に特定の若い世代が一斉に入居したため、数十年後にその住民たちがほぼ同時に高齢者となったこと。

4. 地価の下落によって都心回帰現象が起こり、ニュータウン内に住む若年層がすべて都心へ転出したこと。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 紀伊山地が位置しており、南東から吹く湿った季節風を遮ることで、その南斜面に非常に多い降水量をもたらしている。	近畿地方の中央から南部にかけて広がる紀伊山地は、標高1,000メートルから2,000メートル級の険しい山々が連なる日本有数の山岳地帯です。この山地は、夏に太平洋から吹き込む湿った南東の季節風を正面から受けるため、上昇気流が発生し、三重県の尾鷲などに代表される世界的な多雨地域を形成する要因となっています。一方、北西側の日本海沿岸部や両端の平坦な低地とは対照的な険しい起伏を示しており、地形断面図における最大の特徴となります。
問2	答え 3 近畿地方	日本の地方区分は、歴史的背景や地理的なまとまりに基づいて分類されています。近畿地方は、古くから日本の政治・文化の中心地であった京都府と大阪府の2府を中心に、それを取り囲む三重県、滋賀県、兵庫県、奈良県、和歌山県の5県を合わせた「2府5県」で構成されます。三重県は経済的な結びつきから東海地方（中部地方）として扱われることもありますが、一般的な7地方区分では近畿地方に含まれます。
問3	答え 1 和歌山県	近畿地方の和歌山県は、阪神工業地帯から続く沿岸部に大規模な製鉄所や石油コンビナートが建設されたことで、重化学工業が発展しました。統計上も石油製品や鉄鋼の割合が非常に高いことが大きな特徴です。これに対し、静岡県は輸送用機械、長野県は電子部品や精密機械、滋賀県は電気機械や化学工業が盛んですが、和歌山県ほど石油・鉄鋼に特化した構成ではありません。
問4	答え 4 都市近郊農業	大都市の人口密集地に近い立地条件を最大限に活用し、輸送コストを抑えつつ野菜などの新鮮な産品を出荷する形態を都市近郊農業と呼びます。近畿地方では、この都市近郊農業によって野菜や畜産の産出額が維持されており、古くからの米作りや山地での果実栽培と組み合わせることで、品目構成のバランスが保たれています。
問5	答え 4 人口密度が高く、昼夜間人口比率が100%を超えており、昼間の人口が夜間の人口を上回っている。	大阪府のような大都市では、オフィスビルや官公庁、大学などが集中する「中心業務地区」としての機能を持っています。人口密度が1平方キロメートルあたり500人を超える過密状態でありながら、さらに昼間には周辺のベッドタウンから労働力や学生が流入するため、昼夜間人口比率は必ず100%を超えます。これに対し、周辺の住宅都市（ベッドタウン）では、夜間人口の方が多くなるため比率は100%を下回るのが一般的です。
問6	答え 2 夏から秋にかけて降水量が最も多くなり、冬の降水量は少なくなる、太平洋側の気候に近い特徴を持つ。	大阪市の降水パターンは、季節風や地形の影響を強く受けています。夏から秋は台風や梅雨による湿った空気の影響で雨が多くなりますが、冬は季節風が中国山地や四国山地を越える際に水分を失うため、大阪市を含む瀬戸内海沿岸から太平洋側にかけては晴天が多く、降水量が減少する傾向にあります。福岡市のような九州北部では冬にも一定の降水が見られる点と対照的です。
問7	答え 2 阪神工業地帯や播磨臨海工業地域を含み製造品出荷額等が高く、但馬牛などの肉用牛の飼育や茶の栽培といった農業も盛んである。	兵庫県は、阪神工業地帯や播磨臨海工業地域といった大規模な工業地帯・地域を有しており、重化学工業を中心に製造品出荷額等が全国でも上位に入ります。同時に、農林水産業も多角的に展開されており、北部の但馬（たじま）地方での肉用牛の飼育、丹波地方などでの茶の栽培、淡路島のたまねぎ栽培など、地域ごとに特色ある生産が行われています。選択肢にある愛知県（自動車工業）、静岡県（茶と楽器・オートバイ）、鹿児島県（畜産と茶）と混同しないよう、近畿地方という位置と、高い工業力・多角的な農業の組み合わせに着目する必要があります。
問8	答え 3 兵庫県	兵庫県は約8,396平方キロメートルという、近畿地方の主要3府県（大阪・兵庫・京都）の中で最大の面積を持っています。地理的にも本州を縦断するように日本海側から瀬戸内海側まで広がっているのが大きな特徴です。選択肢にある滋賀県は面積は広いものの、この主要3府県の比較には含まれません。
問9	答え 3 年間降水量が比較的少なく、冬の気温が氷点下近くまで下がるなど、夏と冬の気温差が激しい。	奈良市の雨温図などの統計資料では、海の影響を受けにくい内陸部特有のグラフが示されます。具体的には、太平洋側気候の特色を持ちつつも、年間降水量は少なめで、冬の最低気温が低くなりやすいという特徴があります。特に冬の冷え込みと夏の猛暑の差が激しい「盆地特有の気候」を理解しておくことが重要です。
問10	答え 4 琵琶湖の水質保全を目的として、農業・化学肥料の削減や農業排水の管理を徹底する農家が増えたため。	環境こだわり農業の栽培面積が2000年代を通じて右肩上がりに増加したのは、持続可能な農業に対する社会的関心が高まったことや、琵琶湖の環境を守るという地域特有の課題に対する意識が農家の間で浸透したことが背景にあります。この農法では、農業や肥料の使用を控えるだけでなく、湖への負荷を減らすための厳格な排水管理が求められますが、それらが「環境こだわり農産物」としてのブランド価値にもつながり、普及を後押ししました。
問11	答え 4 黒潮の影響で降水量が多く、古くから杉や檜などの林業が盛んである。	紀伊山地の南部は、沖合を流れる暖流の黒潮の影響を受けて湿った空気が流れ込みやすく、日本でも有数の多雨地帯として知られています。この豊かな雨量と温暖な気候を利用して、吉野（奈良県）や尾鷲（三重県）などでは良質な杉や檜を育てる林業が伝統的に発展してきました。乾燥した気候を前提とした溜池や、広大な平野での農業、火山活動に関する記述はこの地域の地理的特徴とは一致しません。
問12	答え 3 開発当初に特定の若い世代が一斉に入居したため、数十年後にその住民たちがほぼ同時に高齢者となったこと。	高度経済成長期に開発されたニュータウンは、同時期に似たような年齢層の家族（主に子育て世代）が一斉に入居したという特徴があります。そのため、数十年が経過すると、その入居者たちがほぼ同時に65歳以上の高齢者となります。一方で、その子供世代は成長して別の地域へ転出することが多いため、生産年齢人口が急減し、全国平均を上回るスピードで高齢化が進むこととなります。